

東由利町報

No.291 昭和54年6月1日発行 昭和42年7月21日第3種郵便物認可 毎月1日発行



No 291

6
1

《進む国道 107号線改良工事》

本荘、横手にそれぞれ車で30分——をめぐり、町の中央を走る国道 107号線の改良工事が板戸、蔵の2地区で急ピッチですすめられています。

ことし板戸地区は11,300千円で1,740mが幅員11mに改良され、昨年度改良の1,240mと合せ、同地区内2,980mが完了することになっています。

また蔵工区は、60,000千円で横渡地内に橋梁1橋が新設されるほか、用地買収費の予算もついています。

同線は本荘、由利、横手、平鹿を結ぶ大動脈であり、この改良整備は本町発展の上で重要な意味を持ち、一日も早い完成が待たれています。(写真—板戸地内で)

知事の市町村訪問

国県道の改良促進等要望

69市町村のトップを切って本町へ



県政は市町村の振興を第一の目標に…と挨拶する佐々木知事

知事自らが県内各市町村に赴き、市町村がかかえている問題等について県民のなまの声を聞き、県政に反映させることをねらいとした「知事の市町村訪問」は今年も行われ、訪問日程初日の五月二十一日、県内六十九市町村のトップをきって佐々木知事一行が本町を訪れました。

各種団体役員など約百三十人と、一時間半にわたって懇談しました。

懇談会では、まず佐々木知事が挨拶にたち

「……県政をすすめていく上での基本的姿勢は、常に地方自治の原点に立ち、県民本位、市町村本位の行政をすすめて行きたいと考えています。

……最近、新聞、テレビ等で「地方の時代」ということが言われています。この意味は、高度経済成長を追求した結果、人間性の喪失が深刻な問題となり、これを回復するため、人間が人間らしい生活のできる場として残された地方をもう一度見直し、振興を図ろうではないか、ということにあると思います。

私は、この地方の時代の主役は市町村であり、県政は市町村の振興を第一の目標にかかげ、地方の時代にふさわしい県政づくり、市町村づくり

をすすめていきたいと考えています。

こうしたことから、各市町村がかかえている問題、意見、要望等を直接聞き、県政に反映させることをねらいにした訪問、懇談は、今後も続けて行きたいと思っておりますので、活発な意見をお願いします……」と、県政に対する一層の理解と協力を要請しました。

続いて町長が、本町の現状と、道路改良を中心とした要望事項の概要説明を加えてあいさつ。このあと、加藤県総務部主幹兼地方課長から、前回（五十三三年七月）訪問の際の要望事項の措置状況について報告があり、さらに、関係各所長から、今年度要望事項に対する見解や回答が寄せられました。

このほか、町参加者側からは、桐栽培に係る補助制度の延長について要望があり、県側からは国に対し、前向きに

検討するよう働きかける旨の回答がなされました。

このたび町が要望した事項、及び県側からの回答概要は次のとおりです。

国道一〇七号線は、現在本町板戸地区及び蔵工区の改良工事が進行中であるが、由利郡内は幅員線形、路盤等が他に比較し最も劣悪でその延長も長く、管内にさらに一工区（奥ヶ沢）を設け、整備促進をはかられるようお願いしたい。

原則的には、蔵工区の改良見通しがある程度ついた段階で検討したいと考えている。

主要地方道仁賀保矢島館合線の、管内石高ノ大吹川經由須郷峠間の改良促進と、本年度から県営圃場整備事業が実施される石高地区の路線改良の同時施工をお願いする。

石高ノ須郷峠間は、五十五年度から着工するという。ことで検討を進めている。石高地区については、本年度圃場整備と同時に施行する。

一般地方道山崎鴻屋十文字線は、逐年改良整備が進められているが、予算の大巾増額により、改良工事と併せて舗装工事の促進をお願いしたい。舗装については、五十五

年度に実施したいと考えている。

柴倉地区については路線調査を実施し、ある程度路線を検討したい。

神岡坂部横渡線は、昭和五十六年度に完成予定の新秋田空港、雄和町に通ずる唯一の路線である。本町のみならず、矢島鳥海、羽後、湯沢、横手方面からの空港道路としては最短距離にあることから、管内白沢峠を経由し大森町に至る間を早期改良をはかられたい。

公共事業として今年度も継続して施工しており、本年度は中の沢地区を改良する。

また、小倉ノ坂部間のルートを検討し、今年中に調査をしたいと考えている。

一般地方道橋瀬横渡線は、近年、自動車交通量も増加しており、また雄平両郡から隣町大内町方面に至るルートとして利用度が高く、全線にわたって早期に改良整備が出来るよう一層の改良促進をお願いしたい。

本年度も引き続き黒沢地内の改良工事を実施する。また、昨年度改良済の力所については舗装を促進したいと考えている。一般地方道老方沼館線は、当該沿線地域における緊要な生活路線でもある

一行は、知事、県総務部主幹兼地方課長、地方課長補佐、秘書課職員をはじめ、町政と密接な関係にある出先機関の所長ら十名（由利地方部長、同地方部主幹、同福祉、農林土木の各所長、本荘農業指導

センター所長、同保健所次長、由利南部総合土地改良事務所長、中央教育事務所由利出張所長、企画管理室主査）で構成され、午前九時から、待っていた町長以下町執行部、議会議員、教育委員、農業委員、

地域に合った教育の振興を 町教育研究所運営協議会開く

員をはじめ中山町校長会会長（東中）、高橋町教育研究会会長（蔵小校長）、阿部住吉小教頭、それに各小・中学校の研

「東由利町教育研究所運営協議会」を開きました。



研究所の運営、事業内容等について活発に意見交換

- (5) 教育研
- (4) 教育機
- (3) 研究主任会、生徒指導主
- (2) 教育相談を積極的
- (1) 学校教育活動に密着した

健康に関する調査
・学校経営・保護者負担に関する調査
・新任教職員町内めぐり
・教育機器実技講習
・教育講座と研究発表会
・所報の発行
などを実施していくこととしています。

こうした教育研究所は、本町を含め県内では十一の市町村で設置しており、変動する社会情勢の中にあつて、心豊かな人間を育てる「学校教育のあり方を探る、学習指導のあり方を探る。」

り、なお一層の改良整備をお願いしたい。

とくに、管内寺田・祝沢までの間の改良及び舗装事業を大巾に促進されるようご配慮願いたい。

町道金山線は、特別豪雪地帯県代行事業で改良整備されつつあるが、これに舗装事業が施行されるよう、特段のご配慮をお願いしたい。

舗装については、改良工事完成後の五十六年度以降に要望していきたいと考えている。

町の教育の実態を把握

し、小規模校が比較的多くあることから、地域の特性を生かした教育の方向づけ並びに生涯教育の充実をはかる為、町教育研究所に専門職員の派遣を是非お願いしたい。

職員の派遣は、県の定数事情から難しい状況にある。実績を積み重ねながら、定数枠拡大の時期を待っても

らいたい。

冬期交通確保に対する機械及び財政的援助について、特段のご配慮をお願いしたい。

当町は、過疎地域とともに特別豪雪地帯にも指定されており、機械等の整備については、ご期待に沿うよう検討していきたい。

○⁵/₄ 肉用牛生産団地組合の総会。この事業が創設される当時採算ベースに乗るか検討されたことが思い出されるが、若い諸君の熱意と創意が現在みられる成果を生んだ。

組合の皆さんから受ける印象は、行政の補助にすがろうとする態度がないということである。自分のことは自分でやる、自分でやる環境の条件が欲しいという態度である。国の制度を自分達の実情に合せ乍ら選択をして来ておる。必ず伸びるという印象であつた。

○⁵/₂ 新知事さんの市町村訪問が始まり、その第一号が本町。参加者が約百三十名。新知事さんへの期待が多いだけに、活発な意見の発表が出て、知事さんからも素直なお話が聞かれた。全県最初の訪問で、象徴的な感銘を皆さんが持った。

○⁵/₂ 本荘営林署と東由利町との懇談会が初めての試みで持たれた。署からは署長と幹部職員、担当区の長木さん、佐藤さん、町からは正副議長、常任委員長、教育委員長、執行部。官行

造林の伐採計画、伐採搬出後の道路補修等、有意義な交換が行われた。

○ 基盤整備された水田は人影が少なくなまま、いつか田植が終わっているという様に、かつての田植という風物詩的な農村の姿が消えつつある。この変る姿に何を方向づけなければならぬかが農政の課題である。

○ 青森県の三沢空港基地の近くに淋代という所がある。事はあまり知られていない。一九三一年（昭和六年）に此処からアメリカの二人の二十代の青年が飛び立つて、初めて太平洋の無着陸飛行に成功した記念の土地である。

飛行距離四、八七七、飛行時間四十一時間四十三分。それから約半世紀経っている。この二人の青年の名はヒュー・ハドソン、クライド・パンクボン、という訳か、大西洋を横断したリンドバークの様に有名にならない。松嶺と太平洋の波の音の中に三沢市が建てた木柱のモニューメントが建っているだけである。（職員研修旅行の中から）

町長日記

時會
臨議

宿小体育館建築費など

七百七十二万四千円を補正

東由利町議会第三回臨時会

は五月二十三日に招集され、九案件について審議、内八件は原案どおり可決、一件は継続審査とすることにしました。

可決された案件

〔専決処分承認を求めるところについて〕

(1) 東由利町税条例の一部を改正する条例について

地方税法等の一部を改正する法律等が三月三十一日に公布されたことに伴い、速急に町条例の一部改正が

必要となったもの。

(2) 昭和五十三年度東由利町

一般会計補正予算(第九号)

一般会計補正予算(第九号) 草地開発事業、農村基盤総合整備事業、農免農道整備事業、林道開設事業、林道舗装事業、宿小学校教育事業、農林道施設災害復旧事業、公共土木施設災害復旧事業に係る起債申請中のところ、年度末において既定予算限度額を超える起債許可予定額の通知があり、これを起債するため早急に予算の補正を要したため。

〔昭和五十四年度東由利町一般会計補正予算(第一号)〕

歳入歳出予算の総額にそれぞれ七百七十二万四千円を追加し、歳入歳出それぞれ十九億一千六百四十六万六千円とした。歳出補正の主な内容は、次のとおり。

・宿小学校教育施設及び給食施設建築工事費 六百七十七万四千円
・東中ピッチングマシン購入費 七十二万五千円
〔町立宿小学校教育施設建築工事請負契約締結について〕
宿小学校教育施設及び給食施設

設建築工事につき、次のように工事請負契約を締結する。

〔規模〕

・体育館 六三三平方メートル
・給食調理場 一〇〇・四平方メートル

方計

・食堂 一五六・三平方メートル
・附属廊下等 八四・五平方メートル
合計 九七四・二平方メートル

〔工事請負業者・金額〕
・躯体工事 株式会社池田工務店 九千六百五十万円
・電気工事 羽後電設工業株式会社 八百十九万円

・設備工事 山二施設工業株式会社 九百二十万円

〔過疎地域振興のための固定資産税の課税免除に関する条例〕

五十三年度の出かせぎ状況や町の出かせぎ対策、安全就労と健康診断、雇用保険の給付手続などについて意見の交換を行ないました。

開会に当り小松町長は、道路行政を中心に五十四年度町の主要事業について概要を説明しながら、東由利に密着した産業振興を図り、魅力ある豊かな町を築くために、全町民の理解と協力を要請。さらに、季節労働者対策については、解消を図りながらも現実合った対策を推進していきたい、とあいさつしました。

昭和五十三年度の出かせぎを反省し、問題点を協議する「出かせぎ就労者打合せ会」が去る四月二十三日、朋楽荘を会場に開催されました。

当日は、グループリーダーなど八十四人が出席、町長ほか町の出かせぎ対策室職員、議会議員、農業委員会、本荘公共職業安定所長、県出かせぎ対策室指導員、農協参事らと、

例の一部を改正することについて

同条例第四条中、課税免除の基準となる減価償却資産取得価格の合計を、現行の七百円から八百万円に改正した。

〔町営土地改良事業の施行について〕
昭和五十四年度において新農業構造改善事業による町営土地改良事業を、次のとおり施行するものとした。

一、事業名 高屋地区圃場整備事業
二、事業量 二・八ヘクタール
三、総事業費 一〇、七〇〇千円

〔昭和五十四年度町営土地改良事業の経費の賦課基準等を定めることについて〕

昭和五十四年度において施行する高屋地区圃場整備事業の賦課基準並びに徴収の時期及び方法を、次のとおり定めた。

一、賦課基準 関係受益地の地積割
二、徴収時期 町長が定めた時期
三、徴収方法 金銭をもって普通徴収

継続審査とされた案件

〔土地を取得することについて〕

町の粗大ゴミ投棄場に充てるための土地取得場所については、公害発生などの諸問題について調査、検討が必要とことから閉会中の継続審査とした。

た事態に対処するため、就労経路の正常化や健康診断、技能訓練講習会の開催など、現状に即した援護対策をすすめることにしています。

小野さんに感謝状

鈴木さんに表彰状

また、席上、長年にわたって本町の出かせぎ者の地位向上と安全就労に尽くされた小野寅松氏(祝沢)に感謝状、出かせぎ就労前健康診断受診優良グループ・ジーゼル機器就労者代表として鈴木国義氏(大琴)に表彰状が、町長から贈られました。



小野さんには町長から感謝状が贈られた

ルール守って安全就労

＝出稼就労者打合せ会＝

現実に合った援護対策実施



◀ 杉林を縫って頂上の八塩神社をめざす

第1回 八塩町民登山の会

頂上からの眺め最高

五月晴れの好天気恵まれた五月十三日、第一回八塩に登る町民登山の会が行われました。

これは、目前にありながら登る機会の少ない八塩山（標高七一三メートル）に町民一堂で登り、自然に親しみながら体力づくりにつとめよう——と、町公民館が主催したものです。当日は、空青く晴れわたり、風そよぐ絶好の登山日和で、老小一年の小松亮介君を最年少に、最年長六十七歳の石綿壬子雄さん（大琴）まで男女三十一名が参加、思い出に残る楽しい一日を過ごしました。



▶ ところどころに丸木橋がわたされ登山道も整備されている

公民館の畑山社教主事から「登山のマナー」について話を聞き、九時十五分、のろしを合図に八塩ダム入口を出発。青く光るダムの水面を左に見ながら林道を歩き、山ふところへと入る。ところどころに残る雪を踏みしめながら杉林を縫って矢島町との境界線の尾根に出る。と突然、「おお、これは……」の感嘆の声とともに、まだ白く雪に覆われた鳥海山の雄姿が、すそ野の矢島、鳥海の町並とともに大きく眼前に広がり、一行の目を奪い、足を止めさせた。しばらくその眺めをたんのうしたあと、再び尾根伝いにブナの原生林の小径を伝い、頂上の八塩神社をめざす。歩き始めておよそ二時間半、全員が元気に神社へ到着。参拝のあと一行は、周囲の本立が整枝、伐採され展望のきく神社前広場に、背負ってきた弁当をひろげ御神酒を交しながら、町内はもちろん、遠く湯沢、横手、大曲などの

▼ 矢島町との境界の尾根からは、まだ白く雪に覆われた鳥海山の雄姿が眺められた



眺望を心ゆくまで楽しむ。午後一時三十分、初めての試みではないかと思われる頂上からの、高く響きわたるのろしを合図に下山開始。帰路は、ひざが笑う深山口への尾根伝いに下り、約一時間半で出発地点のダム入口に全員到着。関係者以外はほとんどが初めての八塩登山に、参加者は「……天気にも恵まれたが、登山がこんなにもすばらしいものとは思わなかった。しかも、身近にありながら初めて登った八塩山のすばらしさ、汗を流しながら頂上にたどりついたときのなんとも言えないスカッとした気分、また眺め……。できるなら来年といわず、今年のうちにもう一度登ってみたい……」と、口をそろえ話していました。



▲ 汗を流して登りつめた頂上での弁当の味はまた格別

町青年
伝

6年ぶり宿青に栄冠

青空の下好レースを展開

この大会は、町連合青年会（小野勝徳会長）が主催しているもので、



ことしこそ優勝杯はわがチームに…と力走する選手

役場前をスタート、住吉小学校前から農協大琴支所給油スタンド間、六区間、往復二七・三キロに健却を競いました。

レースは、二年連続七度目の優勝をねらう蔵青年会チームと、こと

今年、乱戦状態から第四区で他チームを引き離し、抜け出した蔵青と宿青が激しいトツプ争いを演じ、ゴール前約一〇〇メートルで宿青が蔵青を抜き、そのままゴールイン。六年ぶりに優勝杯を手に入れました。成績等は次のとおりです。

〈総合〉

第一位 宿青年会	1時間45分38秒
第二位 蔵青年会	1時間45分45秒
第三位 法内青年会	1時間46分58秒

〈区間第一位〉

一区（役場前～高戸屋5km）	阿部悟朗（蔵青）17分50秒
二区（高戸屋～住小前折返し須郷田4.6km）	小松朝男（蔵青）16分0秒
三区（須郷田～島4.2km）	遠藤正悦（法内青）14分46秒
四区（島～大琴5.3km）	小笠原均（蔵青）18分19秒
五区（大琴～横渡3.8km）	猪股寿和（宿青）19分01秒
六区（横渡～役場前4.4km）	木島省吾（宿青）15分33秒

福社の窓は休ませていただきます。

昭和三十六年の第一回から今年で十九回を数える伝統あるものです。

今年、町内六地区単位青年会から七チーム（玉米は二チーム）四十二名の選手が参加、

しこそ優勝杯はわがチームの手中にと闘志みなぎらせる他チームが、沿道の町民の盛んな声援を受け、終始好レースを展開。

結局、乱戦状態から第四区で他チームを引き離し、抜け出した蔵青と宿青が激しいトツプ争いを演じ、ゴール前約一〇〇メートルで宿青が蔵青を抜き、そのままゴールイン。六年ぶりに優勝杯を手に入れました。成績等は次のとおりです。



川村参事から町長にメッセージが渡された



国際児童年1979

五月九日午後三時、県民生

児童の福祉向上に努力を 知事からのメッセージ届く

部青少年課の川村参事が本町を訪れ、国際児童年に当って佐々木秋田県知事が各市町村長にあてたメッセージを、小松町長に手渡しました。

今年は、国連で児童権利宣言が採択されてからちょうど二十年目に当り、これを記念して「子どもは民族の宝、世界の宝」という認識のもとに、子どもたちの幸せについて皆で考えよう、と世界各国が児童の福祉向上のために積極的に取り組み、事が要請されているところだ。

- 大谷地線道路改良工事（大谷地内）
 - ・工事費 一四、九〇〇千円
 - ・工事内容 延長三五〇〇
 - ・請負業者 柳沢建設（蔵）
 - ・工事期限 八月二十五日
- 台山線道路改良工事（四ツ眼地内）
 - ・工事費 五一〇千円
 - ・工事内容 延長五二〇
 - ・請負業者 村上建設（新町）
 - ・工事期限 六月十五日
- 中祝沢線災害復旧工事（53年災）（中祝沢地内）
 - ・工事費 一、二四〇千円
 - ・工事内容 延長二二〇
 - ・請負業者 佐々木組（大琴）
 - ・工事期限 八月二十五日
- 稲子沢川災害復旧工事（53年災）（稲子沢地内）
 - ・工事費 二、〇六〇千円
 - ・工事内容 延長二八〇
 - ・請負業者 長谷山建設（
 - ・工事期限 八月二十五日
- 宿小学校体育館及び給食施設建築工事（請負業者、工事費等は四面参照）
 - ・工事期限 八月二十五日
- 十二の前川災害復旧工事（53年災）（十二の前地内）
 - ・工事費 三、二五〇千円
 - ・工事内容 延長四〇〇
 - ・請負業者 佐藤組（八日町）
 - ・工事期限 八月二十五日
- 赤倉川災害復旧工事（53年災）（須郷地内）
 - ・工事費 一、〇三〇千円
 - ・工事内容 延長一四〇
 - ・請負業者 広川工務店（蔵新田）
 - ・工事期限 八月二十五日
- 稲子沢川災害復旧工事（53年災）（稲子沢地内）
 - ・工事費 四、五一〇千円
 - ・工事内容 延長六〇〇
 - ・請負業者 広川工務店（蔵新田）
 - ・工事期限 八月二十五日

（五月二十日現在）

火葬場の電話
3619に

火葬場(宿字根城)の電話番号が、3619(ピンク電話)に変わっています。

交通事故相談

お気軽にどうぞ

日本損害保険協会

相変らず交通事故の発生はかなりの数にのぼっております。

日本損害保険協会では、相談センターを設置し、親身になって交通事故による自賠責、任意を問わず自動車保険の請求手続、解決方法のご相談に応じています。相談は無料ですからお気軽にご利用ください。

・場所 秋田市中通三丁目二

一四四(河北ビル五階)

秋田自動車保険請求相談センター(電)〇一八

八三三二二七九

・時間 平日 九時三十分～

十六時三十分

土曜日 九時～五時

・弁護士相談日 毎週木曜日 十三時～十六時

宅地建物取引主任者

特別研修会案内

昭和五十四年受験「宅地建物取引主任者」の特別研修会が、次により開催されます。

・期日 昭和五十四年七月二

○日十月まで、計六回。

・会場 秋田県青年会館

・時間 十三時～十七時

尚、詳細については、秋田市大町三丁目四の十一、毛利ビル三階、全国建物管理協会にお尋ねください。

防犯に役立てて

水銀防犯灯一基

東北電力本荘(営)

防犯と交通事故防止に役立ててください。一と五月十五日、東北電力(株)本荘営業所(平川雄二所長)から春のサービス旬間にちなみ、水銀防犯灯一基が寄贈されました。

町では早速、蔵に取り付け、地域の安全に役立てることにしました。

同所では、毎年春と秋のサービス旬間に防犯灯を寄贈しており、その数も十基を超えています。

関係者はこうしたご厚志に対し、心から感謝するとともに、安全で快適な町づくりをすすめたいとしています。



善意の献血ありがとう 89名の方がご芳志

四月二十六日、県の移動献血車「あかつき号」が来

町、本荘高校下郷分校前など町内五カ所で八十九名の方々から尊い血液の提供をうけました。

関係者は、この善意の献血にご協力くださった方々に対し心から感謝しています。

なお、今回の「あかつき号」来町は八月二十四日に予定され、今回以上の多くの協力が期待されています。

今回協力くださった方々のお名前。(敬称略)

〔大琴診療所前〕佐々木日出夫、佐々木邦夫、遠藤トキヨ、

佐々木マサエ、豊島実、畑山新一、小野照雄、畑山美喜子、畑山寅松、遠藤寅雄、佐々木幸雄、小笠原敏明、小笠原キヲ子、浅田誠、渡辺秀雄、石綿国雄、佐々木斉、畑山文子、浅田サキ子(以上19名)

〔蔵小学校前〕千葉友幸、阿部久、小野夏男、阿部久一、阿部キチノ、伊東トクミ(以上六名)

〔本荘高校下郷分校前〕太田幸助、佐藤浩志、寅田たず子、横山馨、小野ゆかり、小松育子、遠藤利彦、佐藤公男、村上篤、阿部たち子、高橋賢、小野肇、遠藤強、佐々木正二、畑山工、阿部清記、横山広秋、

佐藤公明、佐藤貴志、小松正人、遠藤美喜子、小松明、畠山公夫(以上23名)

〔農協玉米支所前〕小松ヒサ子、吉田悦子、小野義雄、遠藤キヨ、小松富子、小野暢子、小野善久、小野長清、遠藤太円、遠藤忠雄、横山昌喜、佐々木雅広、畠山芳一、高橋富男、長谷山進(以上15名)

〔役場前〕堀石イチ、小野源一、佐藤徳市、寅田敏雄、遠藤誠功、阿曾文彦、高橋慶一、千葉重喜、堀石文弥、佐藤米二郎、小松多喜子、阿部弘章、渡辺勝男、猪股寿和、遠藤由美子、小松英治、高橋政一、佐藤照子、小野美保子、伊東昭一、正木耕一、村上憲定、浅田照信、小松信記、佐藤淳子、三浦良男(以上26名)

謙蔵さん

まじめな就労に感謝

豊橋市長らから表彰状

季節労働者として、永年に亘りまじめに就労され、その勤務は他の従業員の模範とするところであります。

ごろ、本町黒沢の小野謙蔵さんに愛知県豊橋市長、同公共職業安定所長、同季節労働者受入対策協議会長から表彰状が贈られました。



喜びの手に表彰状を
小野さん

小野さんは通算八年の出かせぎ経験があり、最近五年間は三、四人の仲間とともに連続して同市のマルシメ商店に就労してきたものです。

表彰状を手にした小野さんは、
「……仕事は、施設園芸農家に重油を運ぶタンクローリー車の運転で、事故を起さないよう注意をしながら自分に与えられた事をただ普通にやってきただけです。それがこんなふうに表彰されるとは……。ちょっとうれしく感じますがうれしいことです。
今後、この表彰状に恥じないよう頑張りたいと思っています。」
と喜びを語っていました。

一滴

くもり空からシトシト降る雨。気分までがシメリがちです。なんとか晴れてほしいという願いをこめて、てるてる坊主の一つも軒先につるしたくなるのが、梅雨シーズン。てるてる坊主は、平安時代に中国から伝わったものですが、当時は、よく照ってほしいということから「照れ照れ法師」とか「照り照り法師」と呼んでいたといわれます。それがいつの間にか、照る照る——てるてる坊主となったといわれています。

また、今でこそ軒先につるしますが、少し前までは「なんてん(南天)」の木にかけたものです。

「なんてん」は、難を転じる、つまり「災い転じて福となす」にひっかけたわけで、雨が早く上がり、晴れに転じてほしいという切なる願いがこめられています。

梅雨は一種の雨期で、曇天が多く、日照時間が少なく、ふだんに比べて雨量が多くなります。体調をくずしやすい時期です。十分ご注意を。とくに食中毒には、くれぐれもご用心。

町民のひろば

町の概要	
人口総数	6,370人
うち男	3,132人
うち女	3,238人
世帯数	1,466戸
面積	148.51km ² (54.5.1)

勤労と収穫の喜びを

宿小全校でスイカ定植

農作業を体験することによって土に親しみ、農業の良さと郷土のすばらしさを認識するとともに、勤労と収穫の喜び

をからだで覚えてもらおうと五月七日、宿小では、全校児童と教職員、PTA役員らによってスイカの定植が行われ



収穫の時期に思いをはせ、1本いっぽんていねいに植え付ける児童

れました。圃場は、同校プールうしろの町有地約三アを借り受け、整地や畦立ては事前に父兄がやっておいてくれたものです。

畦は、一年生から六年生まで各学年ごとに六つあり、子どもたちは、おとうさんやおかあさん、お

ばあさんに植え方を教わりながら、一本いっぽんていねいに植え付けていました。この日植えられたのは、早生縞王という品種で、それぞれの畦に八本ずつ、計四十八本です。

このあとの管理は、「観察日記」をつけながら全校児童が交替で行うことにし、収穫したものは、夏の「親と子と教師のレクリエーション」の日にみんなで食べることにしています。

畑に出て土いじりをするのは初めて、というほとんどの子どもたちは、どのくらいなるのかなア、おいしさはどうかなアと、早くも食べることに思いをはせ、収穫の時期が待ち遠しいといった感じでした。

善意

蔵小に外ボウキ20本
黒沢の千葉五郎さんは、このほど蔵小に外ボウキ二十本を贈り、喜ばれています。

住吉小に雑巾50枚
町連合婦人会住吉支部(小松キヤ支部長)では、先ごろ住吉小学校に雑巾五十枚を贈り、喜ばれています。

母と子会話

お手伝いをさせるといつても、雑多な用事を次々に言いつけることで、決してありません。

子どもは、二、三歳ごろから、親のしていることに手を出したり、見よう見まねで、自分でもやってみたりするようになります。

子どものお手伝い

しかる前にまずほめよ

食器をかたづけたり、コップ一杯の水を運んだり、ところが、本人のやる気とは裏腹に、結果的には失敗に終わることが多いよう

育てる上で、いいチャンスなのです。できないことをしかる前に、自分でやろうとする意欲をほめてやってください。積極的な気持ちからお手伝いをしていくとき、子どもは、自分が役立っているという喜びを感じています。お手伝いを通して、家庭の一員としての役割を知ることになるのです。お手伝いは、親と子の新しいコミュニケーションの始まりといえるでしょう。

社福だより

故佐藤太一郎氏のご遺族(時雨山、佐藤征進さん)より、香典返しとして三万円が届けられました。

故人のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

広報誌「あきた」

あなたもどうぞ

県政広報誌「あきた」は、秋田県広報協会が発行している月刊誌で、県勢の状況や秋田の過去、現在、未来を知るのにぴったりの雑誌です。

購読料は年六〇〇円(月五〇円)で、年中役場企画室で申し込みを受けています。あなたもどうぞ!

慶弔

4月21日～5月20日



誕生
おめでとう



結婚
おしあわせに

阿部 久	大琴
工藤 嘉代子	大内町
畠山 政雄	寺田
菊地 ミキ子	新沢
畑山 三郎	土場沢
小松田 和子	泡ノ瀬
高橋 誠一	松柴
後藤 悦子	羽後町
小野 順治	新町
畠山 日出子	愛知県

・お悔み申し上げます

佐藤 太一郎	時雨山	68歳
畑山 庄一	下吹	52歳
佐藤 忠志	黒瀬	6歳
遠藤 キチエ	下小路	76歳
畠山 永太郎	館新田	78歳
高橋 春吉	寺田	86歳